

独立と主権を守るキューバからの訴え

ヒセラ・ガルシア（駐日キューバ大使）

2025年1月30日

以下は日本 A A L A 連帯委員会と「キューバ研究室」共催によるオンライン講演会での発言全文です。

1月3日の出来事

2026年1月3日未明、アメリカ軍の精銳部隊が、ベネズエラ・ボリバル共和国の領空に不法侵入した後、同国の憲法上の大統領であるニコラス・マドゥーロ・モロス氏とその夫人シリア・フローレス氏の邸宅がある地域に侵入し、2人を拉致しました。

米国政府および報道機関が発表した情報によると、約150機の航空機、8機のヘリコプター、ドローン、爆撃機、ミサイル、レーダー妨害装置、防衛手段が使用されたということです。これにより、100人以上の死者と多数の負傷者、ならびに医薬品倉庫や学術施設を含む軍事・民間施設の甚大な破壊が

この攻撃で、32人のキューバ人兵士と将校、ベネズエラ人軍人および民間人が殺害され、多数の負傷者が出了ました。当初、抵抗はなかったと発表されましたが、その後、米国政府は激しい戦闘であったこと、そしてキューバ人達が、奇襲と圧倒的な兵力・兵器の差にもかかわらず、激しい抵抗を示したこと認めざるを得ませんでした。トランプ大統領によれば、複数の米兵が負傷したことです。しかし、米軍の死傷者に関する情報は、慎重に隠蔽されながらも日々明らかになっています。

以前のできごと

ラテンアメリカを米国の「裏庭」と見なす「モンロー主義」が提唱されてから200年以上が経過しました。この主義は、いわゆる「マニフェスト・デスティニ

ー(明白な使命)」思想とも結びついており、19世紀の北米における米国の膨張主義政策を、米国の優越性と神から授かった使命を根拠に正当化するものでした。

トランプは、このアメリカ合衆国史上5番目の大統領の足跡をたどる最初の人物ではありません。スペイン帝国の解体と南北アメリカにおける共和国の発展以来、北の共和国は常に南の隣国が持つ豊富な資源を支配しようとしてきました。

1904年、セオドア・ルーズベルト大統領は「ルーズベルト補論」によってモンロー主義を拡大し、米国は、彼が「慢性的な不正行為」および「不安定」と表現した事態を防ぐため、ラテンアメリカ諸国に介入する権利を有するとしました。

1954年、冷戦最盛期に、アイゼンハワー大統領は、モンロー主義の新たな拡大、いわゆる「ドミニノ理論」を発表しました。これは、ニカラグア、キューバ、ドミニカ共和国、ハイチ、グアテマラ、チリ、グレナダにおける数多くの秘密工作や軍事侵攻を正当化する理由となりました。

ドナルド・トランプは、大統領一期目の任期開始時に、古びたモンロー主義を「ほこりを払って」復活させ、中国による「我々の裏庭」への介入は米国の根本的利益に対する容認できない侵害であると主張しました。

2期目のトランプは、米国の国家安全保障戦略2025について、「長年の放置の後、米国はモンロー主義を再確認し適用し、西半球における米国の優位性を回復する」と述べました。「力による平和」といったスローガンを掲げ、メキシコ湾をアメリカ湾と改名したり、パナマ運河の物流管理権の回復を図ったり、グリーンランドやカナダの併合を示唆したり、東カリブ海への軍事展開や行動を行ったりするなど、就任早々からその真の姿を露わにしました。

1月3日に米国がベネズエラに対して行った卑劣な攻撃は、単発的な出来事ではありません。これは、米国によるベネズエラへの長年にわたる経済・メディア・外交戦争、そして最近では軍事的脅威のエスカレーションの頂点となるものでした。

米軍行動阻止のよびかけ

昨年9月以来、キューバ政府は複数の声明(2025年9月18日、10月3日、

10月9日)で、米国がベネズエラに対する軍事攻撃の準備を進めていると警告してきました。2025年10月9日の声明では、米国政府の明らかな目的は、マドゥーロ大統領の政府を倒し、石油やその他の重要な天然資源、さらには同国の主権さえも米国に提供するような従順な政府を樹立することであると指摘していました。2025年12月23日の国連安全保障理事会で、キューバの常駐代表は、南カリブ海における異常な軍事力の集中、および国際法や米国自身の法律に違反する、繰り返す民間船舶の破壊、超法規的殺害、誘拐、海賊行為について再び非難しました。カリブ海におけるこの異常な軍事展開には、米海軍最大の空母と原子力潜水艦までも含まれていました。

キューバのすべての声明で、ベネズエラに対する軍事行動を阻止するため国際社会の動員が呼びかけられていました。

しかし、かつて米国のラテンアメリカへの介入は偽りの口実のもとで秘密裏に行われていましたが、今やトランプは「ドンロー・ドクトリン」と名付けた政策のもと、仮面を脱ぎ捨て、隠すことなく新たなヤンキー帝国主義を再構築しています。

狙いはベネズエラの石油

米国政府の声明、過去1年間の行動、そして今回の犯罪的侵略は、武力による政権の転覆、個人(大統領を含む)の拉致、あらゆる国家の天然資源の収奪といった特権を自国に正当化しようとする意図を、極めて明確に反映しています。

米国政府はまた、法的根拠も多国間の支持もないまま、他国の船舶を一方的に制裁対象として指定するやり方を始めました。カリブの海賊の時代に戻り、トランプ政権に海賊免許証が与えられるのでしょうか？

1月3日のトランプ大統領の記者会見を聞いてみると、ベネズエラ襲撃と大統領拉致事件の後にもかかわらず、ベネズエラにおける「民主主義」や「選挙」という言葉は一度も言及されませんでした。また、麻薬密輸対策の計画についても触れられませんでした。しかし、私が数えたところでは、トランプは13回にわたりベネズエラの「石油」に言及しています。キューバが言っていた通りでした。そしてトランプは自分の目的を隠すつもりもありません。麻薬取引との戦いではなく、ベネズエラの石油埋蔵量やその他の天然資源です。トランプ大統領はこれらが米国の所有物であるとまで発言しています。

ベネズエラに対する攻撃的なエスカレーションの口実は、トランプ自身と国務長官、国防長官によって明らかになりました。彼らの野望は石油であり、米国はそれを自国のものと見なしています。同様に、米国はラテンアメリカとカリブ海のすべての国の富と天然資源も自国のものと見なしているはずです。

誘拐事件から 1 週間後、米国司法省は、マドゥーロ大統領が「ロス・ソレス・カルテル」の首領であるという告発を取り下げ、同カルテルが存在しないことを認めざるを得ませんでした。

トランプはキューバについて何と言ったか

「キューバは崩壊寸前のようなだ」

「彼らが持ちこたえられるかはわからないが、キューバは今、収入源を失っている。すべての収入はベネズエラ、ベネズエラの石油から得ていた」

「明らかに、キューバについて話す必要があるだろう」

「キューバへの石油も資金も、もう一切供給されない！ゼロだ！」

「手遅れになる前に、合意に達することを強く勧める」

「これ以上圧力をかけることは、そこに入って破壊する以外には考えられない」。

「キューバは過去 25 年間、困難に直面してきた。完全に落ちぶれたわけではないが、自らが望むところにはかなり近づいていると思う」「彼らは強い、強い民族だ。偉大な民族だ」

「私はそれがいいと思う」(Truth Social のユーザーが、マルコ・ルビオ国務長官がキューバの大統領になるべきだと示唆した投稿について)

キューバの立場

1 月 3 日未明に米国がベネズエラに対して行った攻撃および同国大統領の拉致は、国際法、国連憲章、ならびに米国およびベネズエラ自身の法律に違反する国家テロリズムという犯罪行為です。

これは支配を目的とした帝国主義的かつファシスト的な侵略であり、モンロー主義に根ざしたアメリカ大陸に対する米国の霸権的野心を再現し、ベネズエラ

および同地域の天然資源への無制限なアクセスと支配を確立しようとするものです。

この地域の各 government は、自国民を代表して、2014 年 1 月にハバナで「ラテンアメリカ・カリブ海地域平和地帯宣言」を満場一致で採択しました。この理想は今、米国による攻撃にさらされています。

キューバは、モンロー主義を受け入れません。今ベネズエラで起きていることは、私たちのどの国にも起こります。私たちが一致団結し、断固たる姿勢で行動しない限り、それが起こらないという保証はまったくありません。

1 月 3 日にベネズエラで起きた出来事の目的の一つが、キューバの革命政府の打倒にあることは疑いありません。この政策を担当する者たちは、その意図を隠そうともしていません。

キューバは侵略を受けている国です。トランプ大統領とマルコ・ルビオ国務長官のキューバに関する発言については既に述べました。驚くことではありません。これらは、過去 67 年間にわたる攻撃によって明らかになった、そして私たちが国際社会に警告してきた意図です。トランプは、もはやキューバに侵入して破壊する以外、これ以上どのような損害を与えることができるか見当もつかない」と公に認めています。今、誰に向かって「封鎖は存在せず、キューバ政府の作り話だ」と主張するつもりなのでしょうか？

燃料の完全停止に

米国は、経済的圧力、すなわち封鎖を強化し、彼らが言うところの国家崩壊を引き起こすことを目標としていると宣言しています。これは、皆様もご存知の通り、我が国はすでに非常に厳しい状況にあります。それをさらに悪化させることを私は認識しています。

すでに実施されている最初の措置は、ベネズエラからキューバへの燃料供給を完全に停止することであり、これは 2019 年からこの目的で実施してきた措置に加わるものです。

キューバに対して行われていること、そしてキューバのすべての家族、すべてのキューバ人の生活水準をさらに損ない、必須のサービス、生産能力、電力供給、交通、通信、そしてエネルギー供給と燃料の入手可能性に依存するあらゆるものに麻痺させようとしているのは、実に残酷なことです。

米国がキューバに対して行っているジェノサイド的な封鎖は、人類史上最も長く、残酷で非人道的なものです。私は封鎖の下で生まれ、私の子供たちも封鎖の下で生まれました。孫たちもそうです。これは米国が一方的にキューバに対して課した戦争行為であり、近年ではキューバが「テロ支援国家」という恣意的で悪名高いリストに追加されたことでさらに激化しています。この措置は、日本を含む世界中のあらゆる地域におけるキューバの経済・貿易・投資関係を妨害することで、キューバの財政能力に甚大な影響を与えています。

キューバは燃料の輸入を欠かすことができず、米国政府もそれを知っています。そして、他のいかなる国家と同様に、キューバには経済パートナーから燃料を輸入する「権利」があります。

今やさらなる極端な措置が検討されています。キューバ国民やその苦しみ、停電や医薬品不足など彼らにはどうでもいいことなのです。これらは崩壊と政権交代を画策する手段に過ぎないのです。

対話と関係改善の意志

「手遅れになる前に」ワシントンと合意に達すべきだという要求について、ディアス＝カネル大統領は「キューバは自由で独立した主権国家である」と応じました。「誰も我々に何をすべきかを指示することはできない」と。また、交渉が行われているという噂を否定しました。キューバは、常に、相互尊重と無条件を前提とした対話と米国との関係改善への意思を表明してきました。これは 60 年以上にわたる立場であり、現在もその立場です。

米国は、現時点でキューバに対する軍事攻撃を計画していないと表明していますが、私たちはナイーブなお人好しであってはならないことを学んでおり、国の防衛に備えています。いかなる脅威や軍事攻撃の試みも、米国の圧倒的な軍事的優位性にもかかわらず、我が国の国民によって力強く、断固として、そして決意をもって撃退されるでしょう。

皆さんのが我が国の国民の反応を表す映像をご覧になったかどうか知りませんが、いくつかお見せします(画像)。我が国の戦闘員たちを迎えた時の映像です。
(画像)

国民の抵抗の意志をくじくことはできない

去る 1 月 17 日土曜日、国家防衛評議会が招集され、全人民戦争という戦略的構想に基づく国の準備の一環として、「戦時国家」への移行の計画と措置を審議し承認しました。キューバは脅威を与えるのではなく、準備を整えるのです。

米国の攻撃的な計画と行動は、キューバ政府を打倒することも、我が国の国民の抵抗の意志を挫くこともできないでしょう。とはいえ、それらは引き続き多大な損害と苦痛をもたらし続けるでしょうが。

確かに我々は内部変革を行わなければならず、その過程にあります。国内生産の拡大、不備や官僚主義的障害の排除、歪みの是正、構造改革の実現が急務です。背景は変わりません。我が国の財政は執拗に追及されています。今日でも、多くの困難の中でキューバとの商業取引を試みている日本の企業の人達は、そのことをよく知っています。しかし、繰り返しますが、これはキューバ国民の主権の問題です。

最近私は、日本の銀行の立場により多大な困難があるにもかかわらず、キューバとの取引を続けてくれている日本のある大企業を訪問しました。そしてその業績には驚嘆しました。その技術力、その効率性に。同社は 1875 年に設立されたそうです。当時キューバはまだスペインの植民地でした。

私たちは四世紀にわたるスペイン植民地支配から脱却したものの、今度は米国的新植民地となりました。その後のキューバの社会主義プロジェクトは最も困難な試練に直面してきましたが、その社会的成果を否定できる人はいません。引き続き努力し、国民のニーズを満たすために、変えるべきものはすべて変えて行かなければなりません。しかし、繰り返しますが、それは主権の行使として、外国による干渉の余地のない形でなされなければなりません。

人類全体にたいする脅威

この脅威はベネズエラだけに限ったものではありません。それは人類全体に対するものであり、力による平和という誤った教義に基づいています。この帝国主義的政策は、世界のすべての国々、特にラテンアメリカとカリブ海諸国にとって大きな脅威となっています。しかし、脅威にさらされているのはグローバル・サウス諸国だけではありません。グリーンランドで起きていることを見てください。トランプ大統領は公に、国際法は尊重しない、権力の限界は自分自身の道

徳観だと発言しています。恥ずかしくないのでしょうか？彼には限界があります。

現在の米国政権は、野蛮と新ファシズムの新たな時代への扉を開きました。政権内のタカ派は、米国が軍事力を通じて世界的に自国の利益を押し付けると明言しています。

第二次世界大戦後に確立された国際法、法の支配、武力による現状維持変化への反対、航行の自由の権利、それらに反するこの新たな状況に立ち向かわないと、世界にとって非常に深刻な事態となるでしょう。特に、過去に原子爆弾の使用さえも躊躇しなかった核保有国が関与している場合にはなおさらです。

平和のための世界的な動員を

帝国主義の攻撃に直面する中、平和のための世界的な動きが必要です。国連加盟国に対するこのような性質と重大性を持つ侵略行為、主権国家の現職大統領を軍事作戦で拉致する行為、そして国際法の原則を完全に無視する行為が、罰せられずに放置されることを国際社会は許してはなりません。

私たちは今、皆にとって危険な状況に直面しており、この告発を多国間フォーラム、特に国連に持ち込むためには、より大きな連帯と、また私たちの国々の間のより大きな協調が必要とされています。

私たちは、国際社会の良識と、キューバに対する武力攻撃の可能性に反対するために動員する能力を信頼しています。

しかし、米国とベネズエラの紛争、キューバとの歴史的な対立、そして私たちの土地に「侵入し破壊する」という脅威を超えて、私たちは皆、今歴史的な局面を迎えてます。私たちの立場が国際秩序、国際システム、国連、国際法、国家間関係、国際貿易、国際航海の未来を決定するでしょう。

最後に、ホセ・マルティの思想の一節を引用して締めくくりたいと思います。『思い上がった村人は、世界全体が自分の村であるかのように思い込み、こうしてすでに宇宙の秩序を是とするに至る。しかし、七里靴を履いた巨人の存在を知らず、その巨人が自分の上に靴を踏み下ろすことさえできるということも理解していない。』 「七里靴の巨人が通れぬよう、木々は一列に並ばねばならないのである！」

ご清聴ありがとうございました。

(山中道子訳)